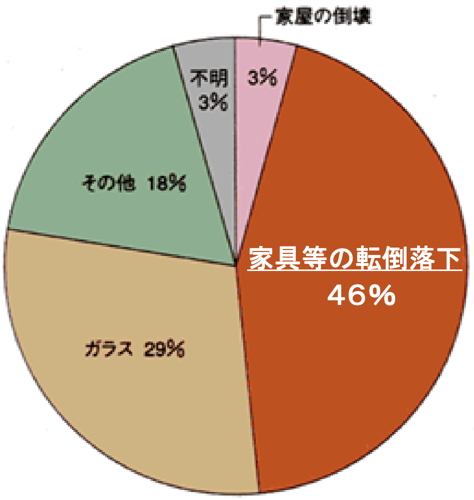
地震に備えて
家具の転倒防止を！

　平成２３年３月１１日、東日本大震災でマグニチュード９．０という巨大地震が発生したのは記憶に新しいところです。関東地方でも、３０年以内にマグニチュード７クラスの大地震が起こる確率は７０％と言われています。
　まずは、身近なところから、安全の確保をしましょう。

家具の転倒防止の必要性

　阪神淡路大震災で負傷された方の約５割が、家具の転倒や家具からの落下物によるものでした。
　また、気象庁発表の震度階級関連解説表によると、震度５弱で『家具が移動することがある』、震度４でも『座りの悪い置物が倒れることがある』と記載されています。たとえ建物が無事でも、家具が転倒するとその下敷きになってけがをしたり、室内が散乱することにより逃げ遅れてしまったりする場合があります。
　特に、背の高い家具や重量のある家電製品は要注意です。家具の転倒・落下防止対策を万全にして、家庭での被害を防ぎましょう。



【日本建築学会】
「阪神淡路大震災　住宅内部被害調査報告書」より引用

まずは空間の確保

家具の置き場所や置き方を見直し、室内の安全確保をしましょう。

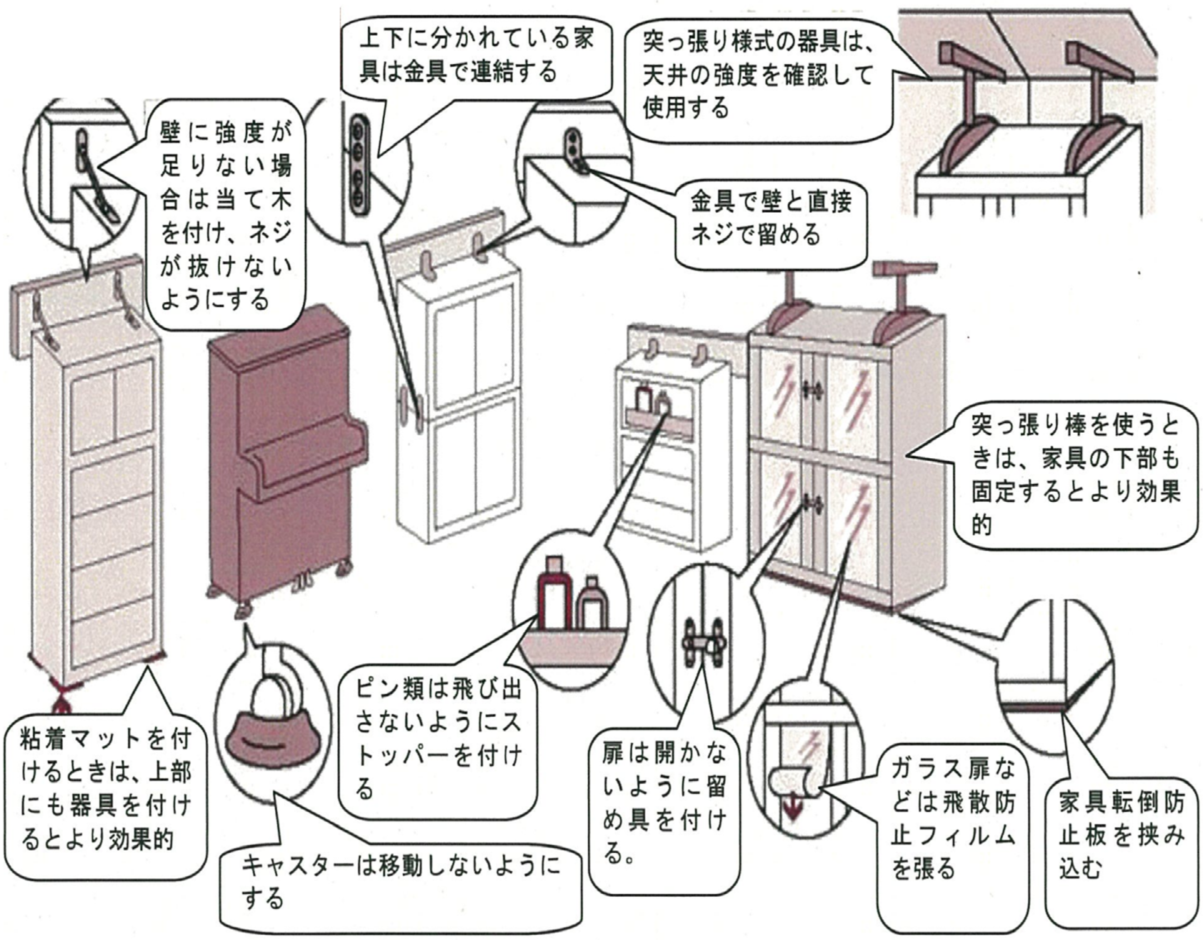
<チェックポイント> お部屋の中をチェック！

- □ 寝室・幼児・高齢者のいる部屋には家具を置いていないか。
- □ 部屋の出入口付近や廊下階段などに家具類を置いていないか。
- □ 地震時の出火を防ぐため火気の周辺に家具を置いていないか。
- □ 家具の上にガラス製品やテレビなど落下すると危険なものを置いていないか。
- □ 重いものを下のほうに収納し、倒れにくくしてあるか。
- □ 前のめりより、後ろもたれ気味に家具を置いているか。

家具の転倒防止器具の設置例

家具転倒防止器具の設置効果は,家具,天井,壁及び床などの材質や構造により変化します。また、家具の上下2箇所を器具で固定すると片側だけで固定するときよりも高い効果があります。

なお、ここに紹介した以外の方法で家具を固定する器具も市販されています。



日頃から身の回りの安全確保や生活物資の備蓄など、災害から自分や家族を守るために「減災」に取り組みましょう！